

第8回 郷土史講座 資料

870228

★『三生野遺跡』

1. 遺跡名 三生野遺跡
2. 所在地 遠敷郡 上中町 三生野
3. 調査主体 上中町教育委員会
4. 時期 弥生時代後期末・古墳時代中～後期・平安時代中期
5. 調査期間 昭和61年10月17日 ~ 昭和61年12月10日
6. 調査成果

県営圃場整備事業施工を前に、遺跡の範囲確認・遺構の残存状態の確認を目的に実施したものである。昭和37年（1962）に田舟・梯子などの木製品が出土した増コ田地籍を中心にして、集落付近の調査を行った。

調査の結果としては、明確な遺構を検出することはできなかったが、弥生時代後期末、古墳時代中・後期、平安時代中期の土器が出土している。

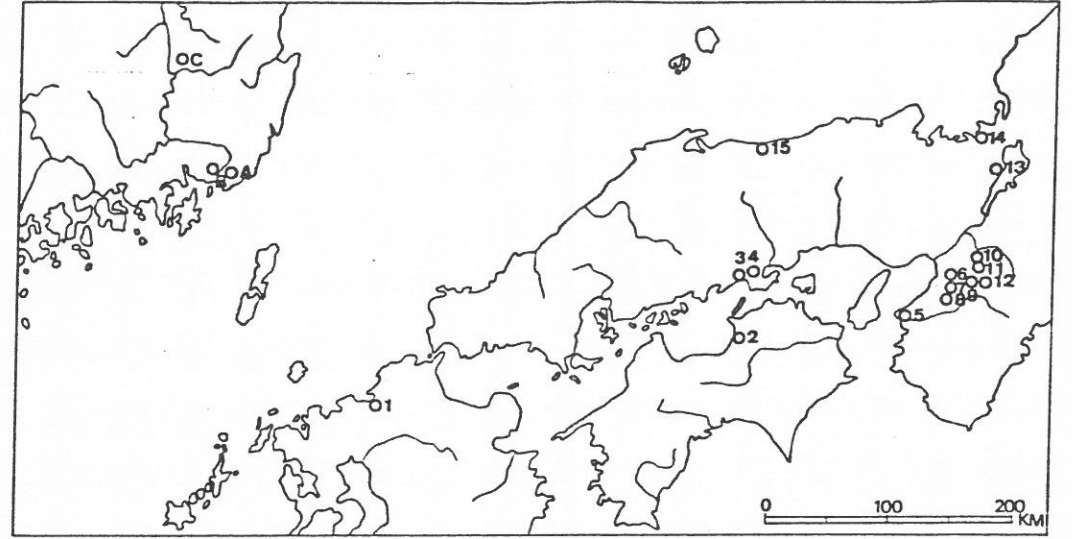
いずれの包含層も土地改良工事の際移動を受けており、土器片も細片となったものが大半である。

しかしながら、出土した土器は若狭における該期研究に貴重な資料を提供している。中でも古墳時代中期に属する陶質土器は、胴部に粗紐文を施した台付長頸壺と推定される。本例に見られる粗紐文は、日本出土の粗紐文には類例が見られず、韓国礼安里第36号墳出土資料中に見い出すことができる。

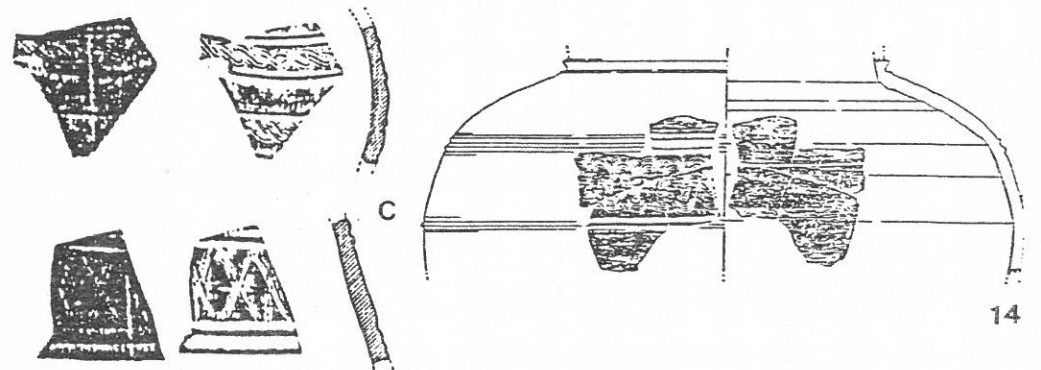
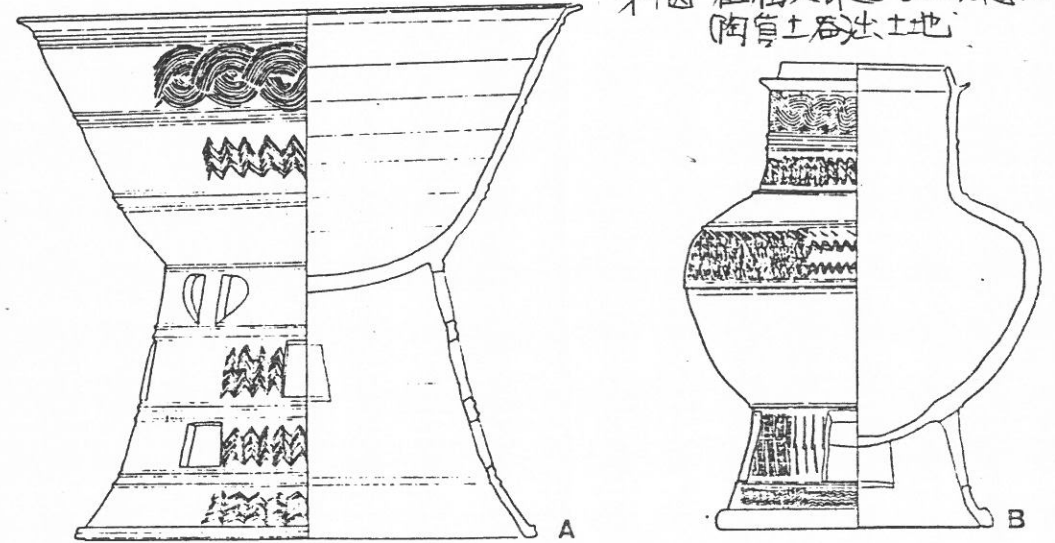
1. 遺跡の概要

2. 出土遺物

3. 粗紐文様を施した(台付)長頸壺が出土した背景

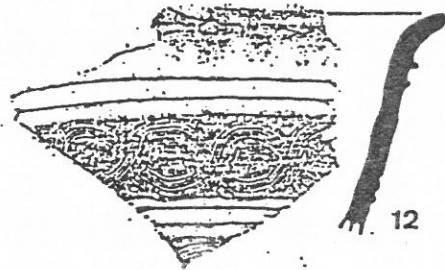
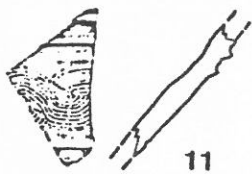
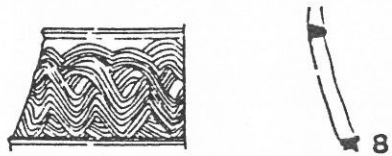
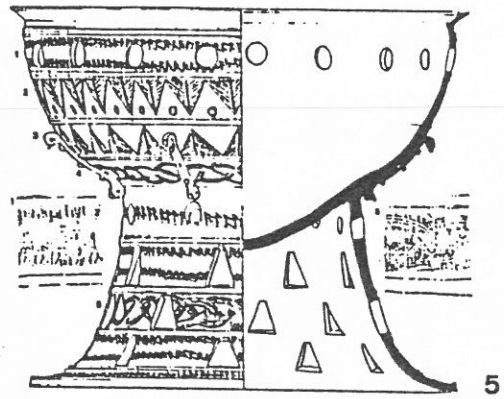
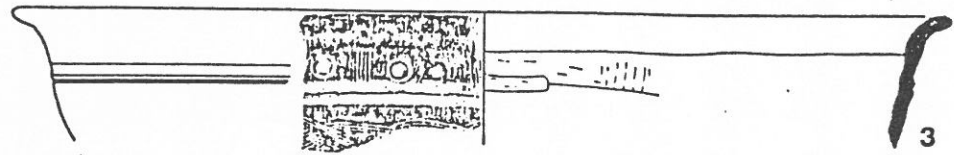
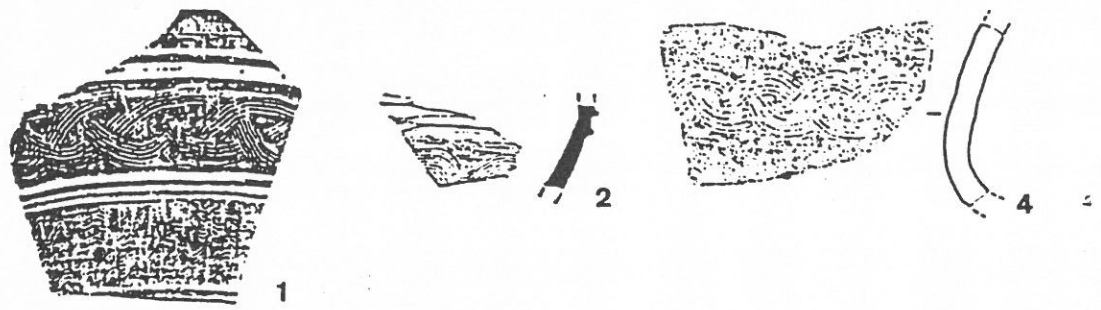


第1図 粗紐文様をもつ有蓋器
(陶質土器出土地)



第2図 韓国出土の粗紐文様と三生野出土の陶質土器
A・B (1/5), C (1/4), 14 (1/4)

MeMo



第3図 組紐文様をもつ須恵器(陶質土器) 番号は第1図番号に
対応する。1・2・4・6・11~13(各1/4) 15(1/4), 5(1/2)